

令和元年度 事業報告書



社会福祉法人 大野福祉会

目 次

	法人設立60周年を迎えて	1
I	総務課	4
	1. 財務状況 2. 防災・防犯対策 3. 看護業務	
	4. 給食業務	
II	各事業の状況	11
	1. 救護施設大野荘	
	(1) 利用者状況 (2) 日中活動 (3) 個別支援計画	
	(4) 作業班の活動 (5) 居宅生活訓練事業	
	2. 障害者支援施設むつみ園	15
	(1) 利用者状況 (2) 生活状況 (3) 個別支援計画	
	(4) 短期入所事業 (5) 日中一時支援事業	
	3. 共同生活援助事業	18

4. 障害福祉サービス事業所よもやま	19
(1) 利用者状況	
(2) 就労継続支援B型事業	
5. 生活困窮者自立相談支援事業	21
(1) 自立相談支援	
(2) 就労準備支援	
6. 障害者相談支援事業（計画相談）	22
Ⅲ. 職員研修	23
(1) 利用者支援研究会	
(2) ケアマネ研究会	
(3) 派遣研修（大野荘）	
(4) 派遣研修（むつみ園）	
(5) 所内研修	

法人創立60周年を迎えて

永い歴史の中で

当法人は昭和35年4月に法人認可を受け、5月1日から救護施設「大野荘」として定員90名で開所し、本年5月で創立60周年を迎える節目の年度となりました。

これまで、法人が歩んできた福祉活動の歴史を振り返ってみますと、戦後、国における社会福祉に関する基本法は、昭和26年6月施行の社会福祉法であり、その当時施行されていた福祉関連法は、昭和23年施行の児童福祉法、昭和25年施行の身体障害者福祉法と生活保護法のみにより、10年間福祉活動の実践が行われてきた中、当法人は、生活保護法に基づく救護施設を開所することで、障がい者を理由に地域社会で生活できない困窮者を対象に憲法25条に明記されている「文化的な最低限度の生活を保障する」ことを目的に福井県内唯一の福祉施設として福祉活動を実践することとなりました。時を同じくして、知的障害者福祉法、老人福祉法などの法律が施行となり、国民が社会生活を営む上で、それぞれの障害に応じた必要な福祉サービスを受けられる法体系の整備がなされました。その後、昭和の経済成長期とともに福祉分野においても、施設の創設とともに施設福祉を中心とし、それぞれの障がいに応じた障害者施設の運営と、福祉系の学校が創設され、福祉の専門集団が形成されて現在の施設福祉の礎となってきました。当法人は、昭和45年に知的障害者施設(昭和48年に法人分離)を創設し、昭和52年には、救護施設の建物の老朽化に伴い、救護施設「大野荘」と知的障害者支援施設「むつみ園」を現地に併設し、同地に法人本部を移転して42年が経過し現在に至っております。

福祉制度の変遷

これまで国は、老人介護、児童保育、障害福祉等の社会福祉制度については、それぞれ

の福祉ニーズに応じた法制度の整備を行ってきたところです。しかし、今、日本の人口減少問題、深刻な高齢化が進み、生産性人口が減少している日本の人口動態を見ると令和を迎え、新しい時代の日本に求められるのは、「多様性」と「包括性」であり、2040年を見据えた社会保障制度の確立であります。すべての人がその個性を生かすことのできる一億総活躍社会を創ることで少子高齢化という大きな壁を克服していける地域共生社会の実現に向けた取り組みが求められていることを認識しなければならず、「支える側」と「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会が繋がり、一人ひとりが生きがいや役割をもち、お互いに支え合いながら暮らしていくことができる、包括的なコミュニティ社会を創っていくという取り組みが求められております。

そのため、国においては、平成29年社会福祉法の改正を行い、住民が主体的に地域生活課題を把握し解決を試みる体制づくりの支援や、複合化・複雑化した課題に支援関係機関などが連携して対応する包括的な支援体制の整備を進め「全世代型社会保障制度」

の構築を図っていくこととしております。

法人の事業報告(概要)

○ 事業展開

救護施設関係では、従来「最後のセーフティネット」としての役割機能を果たしてき

ましたが、10年前頃から単身世帯の生活困窮者が都市部に集中し、無料低額宿泊所と言われる施設を利用する生活保護者が増加している実態が浮き彫りになり、救護施設と無料低額宿泊所の法的根拠が薄らいできていることについて、それぞれの施設の在り方についての議論がされております。今後は、日常生活支援住居施設として包含した施設の役割機能を持つこととなり、救護施設を運営している当法人としては、140人定員が入院患者を差し引くと135名を下回っている現状も鑑み、法改正を見据えながら、当法人として救護施設の定員規模等を勘案し、地域社会に貢献できる施設としての機能を発揮していきたい。

又、利用者の平均年齢が69.1歳(最年少40歳、最高年齢96歳)に達しており、利用者の日常生活の日課の目標が自ずと身体機能の維持を中心とした編成になっているため、各居室の環境が介護施設と同様な個室とベッド対応できる環境を整え、これからは、更によりハビリ部門の訓練強化を図っていく必要があると考えております。

一方、障害者支援施設むつみ園についても、平均年齢が65歳となっており、県内でも一番高齢化が進んでいる施設であり、利用者自身が自立した身辺処理ができない高齢者が大半を占め、生活介護事業の職務内容が必ず職員の見守りが中心となっております。そのような中でも、利用者個人が求めている人間らしい生活を最大限尊重した施設での生活をこれからも維持していけるような事業展開を行っていかねばなりません。

又、就労継続支援B型事業所よもやまにおいては、第一の目標である利用者の作業工賃の確保については、これまで多くの作業種目を取り入れ、工賃の確保を図ってきたが、国の目標値である月額30,000円には届かず、今年度においては、月額22,784円の支給に留まったものの前年と比べて440円の向上につながっております。しかし、今後は、利用者の高齢化と作業能力の低下に伴ってこの事業が持続可能な体制で維持していけるかが喫緊の問題となっております事業経営に影を落としています。

5ヶ所運営しているグループホーム事業については、利用者の高齢化と能力低下は見えるものの定員の見直し等も含めて一年間は維持できたことは世話人とGH事業担当者の専属配置によると考えております。今後もできるだけ地域社会での生活を目標に掲げた事業経営を目指していきたいと考えております。

何れに致しましても、法人の理念である「一人ひとりの立場で考え、共に生きる豊かな社会を目指す」に基づき、利用者の立場に立った個々の個別支援計画を年度当初に作成し、支援の基本として利用者主体での日課活動の実践を行ってきたところであります。

○ 財政状況

本年度における事業活動の収支については、全体で、収入が675,184,000円、支出につ

ては、人件費支出が373,859,000円で全体の55.3%を占めている。その他事業費

130,566,800円、事務費支出68,349,000円、就労支援事業支出12,349,000円、その他の支出37,200円を合わせて合計585,161,000円となっております。又、施設整備等による収支について

は、収入が、むつみ園保護者会からの寄付金収入10,000,000円と大野福祉会後援会からの寄付金収入5,000,000円の合計15,000,000円の収入があり、支出については、101,897,930円支出となっております。収支差額86,897,930円については、前年度までの積立金を取り崩して財源充当しており、その他の活動収支と合わせ当期資金収支資金残高は、88,789,143円を前年度からの積立資金を充当しており、全体での当期末支払資金残高は、274,770,859円

となっております。

○ 施設整備の状況

平成30年から開始した大野荘・むつみ園の施設整備計画の進捗状況についてはであ

りますが、今年度の執行について、大野荘は、男子寮の居室改修工事を行っており、増額
 42,837,000円の事業支出、むつみ園は、空調改修工事19,926,000円の事業支出となっております。その外には、令和2年度に国庫補助事業として大野荘の増築工事を計画して
 お
 りますが、現在のグラウンドと職員駐車場を建設用地として計画中であり、現在地から設
 設
 しなければならない状況下であり、これまでの理事会の中で、審議を重ねてきたところ
 む
 つみ園南側にある大野市下舌地区の柿本氏所有の土地を借り入れできることとなり、職員全員の駐車場とグラウンド用地として今年度造成工事を行うことができ、その事業支出が25,019,300円となっており、本年度の施設整備事業の全体は総額で、合計
 87,782,300
 円となっております。

以上、昨年度の一年を振り返り、事業の概略を報告書として纏めたものであります。

社会福祉法人 大野福祉会
 理事長 木間 幸生

I. 総務課

	就労支援 事業収入	就労支援 事業支出	収入	支出	積立 (前期取崩額)
法人合計	13,149	12,349	780,001	682,711	186,880 (126,000)
法人本部			28,647	28,256	
大野荘			459,706	407,648	101,000 (70,000)
相談支援事業所			11,938	11,371	
むつみ園			202,200	171,734	52,600 (30,000)
よもやま	13,149	12,349	34,950	28,302	30,100 (26,000)
GH計			42,560	35,400	3,180
さわらび			7,690	6,711	200
かささぎ			9,213	7,606	610
たんぽぽ			9,114	7,529	860
うぐいす			7,594	6,636	300
ひまわり			8,948	6,917	1,210

1. 財務状況

(単位:千円)

収入においては、生活保護事業収入が8,000千円増、障害福祉サービス費が5,000千円減、その他の収入が4,000千円増となっている。支出では、昨年に引き続き大野荘男子寮居室改修工事に58,259千円、むつみ園空調設備改修工事に22,594千円、グループホームの消防設備改修工事に1,261千円の合計82,260千円の施設整備等積立資産の取崩を行い、工事を行った。また後援会および保護者会から15,000千円の寄附金をいただき、駐車場及びグラウンドの整備を行った。その他、赤い羽根福祉基金から助成を受け、緊急一時受入事業の実施に向けてチラシ作成、先進施設への研修等の体制整備を行った。積立金としては、当年度収支差額より60,880千円の積立と、前期末支払い資金残高（繰越金）より、将来の施設整備費用として法人全体で126,000千円の積立を行った。

2. 防災・防犯訓練

実施場所	項目	実施日	内容
よもやま	火災避難・通報訓練	令和元年6月26日	食品加工室より出火を想定し、避難・通報訓練を実施。
むつみ園	地震避難訓練	令和元年7月2日	日中震度5程度の地震を想定し、避難訓練を実施。
むつみ園	火災通報、避難訓練	令和元年9月2日	火災発生による通報と、避難訓練を実施。
こでまり作業所	火災避難・通報訓練	令和元年9月24日	作業中湯沸室より出火を想定し、避難・通報訓練を実施。
むつみ園 大野荘	総合防災訓練	令和元年10月2日	夜間むつみ園厨房からの出火を想定し、避難・通報訓練を実施。大野荘も延焼の恐れがあるとして避難・通報訓練を実施。消防署・小山地区消防団と連携して実施。
かささぎ	火災避難・通報訓練	令和元年10月8日	台所より出火を想定し、避難・通報訓練を実施
ひまわり	〃	令和元年10月18日	〃
たんぽぽ	〃	令和元年10月28日	〃
さわらび	〃	令和元年11月11日	〃
うぐいす	〃	令和元年11月18日	〃
大野荘	地震・火災避難訓練	令和2年3月3日	夜間地震が発生後、厨房より出火を想定し、避難訓練を実施。

○防災・防犯に関する研修の開催について

令和元年7月2日 防災研修

令和2年1月21日 施設防犯研修

令和2年3月13日 地域住民との防災研修（コロナウイルス感染対策のため中止）

3. 看護業務

救護施設 大野荘

(1) 検査・検診の実施状況

項目	実施日	実人数	実施機関名	内容	結果
健康診断(定期検診)	随時	64	尾崎病院・他医療機関	①～⑦	投薬治療継続
春の内科検診1班	6月12日	24	嘱託医	⑤⑥⑦	特変なし
往診2, 3班	6月14日	38	嘱託医	⑤⑥⑦	特変なし
往診班以外	6月21日	50			
男性胃癌検診	6月3日	22	福井健康管理協会	胃透視	要精検2名 要経過観察2名
乳癌検診	8月20日	22	福井健康管理協会	視触診	要精検1名
子宮癌検診	8月20日	10	福井健康管理協会	細胞診	異常なし
生活習慣病検診	9月9日	78	予防医学協会	①～⑧	11名再検し、 1名治療
秋の内科検診1・2・3班 (インフルエンザ予防接種)	11月 13・20日	62	嘱託医	⑤⑥⑦	投薬治療継続
秋の内科検診(往診班以外) (インフルエンザ予防接種)	11月15日	65	嘱託医	⑤⑥⑦	特変なし

* 検査項目：①検尿②血液検査③心電図④胸部XP⑤血圧測定⑥問診⑦聴診⑧身長体重

- ・ 内科、精神科定期通院は1ヶ月に1回受診
- ・ 内科嘱託医による月2回往診、精神科嘱託医による月2回往診
- ・ 血圧測定、体重測定、血糖測定は月1回実施
- ・ インフルエンザ予防接種は秋の内科検診日に実施（体調不良者、入院者は随時実施）
- ・ 内服状況 ①内科薬 82名 ②精神科薬 78名 ③その他（脳・皮・眼・整）26名

(2) 施設内での保健衛生実施状況

月 日	実施項目	内 容
7月 1日	全体保健指導	脱水について
6月20日	害虫駆除	バルサン散布、アースノーマットの配布 大掃除
5月13日	脱水症予防対策	入浴前後に水分補給開始
10月10日	空調設備の清掃	通気口掃除（細菌感染対策）大掃除
11月1日	全体保健指導	・感染症対策について
11月1日～ 3月まで	感染症予防対策	手洗い、うがいの指導励行。外出時のマスク着用 荘内の環境整備、消毒の発信

(3) 年間入院状況

	県立病院	済生会病院	福仁会病院	たけとう病院	尾崎病院	その他	合 計
実人数	16	21	87	10	20	30	184

延べ日数	262	274	1933	224	260	553	3506
------	-----	-----	------	-----	-----	-----	------

(4) 年間通院状況

	内科	外科・整形外科	精神科	歯科	皮膚科	眼科・耳鼻科	泌尿器科	その他	合計
実人数	285	99	408	64	41	43	27	37	1004
延べ日数	401	130	426	117	45	47	28	43	1236

(5) 年間処置数

	傷処置	不眠・不穏薬	軟膏	点眼	パウチ	下剤・坐薬	解熱・鎮痛剤	血糖測定	その他	合計
実人数	104	192	263	46	24	679	150	312	379	2149
延べ日数	331	840	1060	528	199	1908	405	340	831	6442

障害者支援施設 むつみ園

(1) 検査・検診の実施状況

項目	実施日	実人数	実施機関名	内容	結果
胃癌検診	5月14日	7	福井健康管理協会	胃透視	異常者無し
胃癌検診 (GH)	5月14日	20	福井健康管理協会	胃透視	異常者無し
内科検診	6月12日	37	嘱託医	⑤⑥⑦	喘息1名内服処方
乳癌検診	8月20日	18	福井健康管理協会	視触診	異常者無し
乳癌検診 (GH)	8月20日	9	福井健康管理協会	視触診	異常者無し
子宮癌検診	8月20日	2	福井健康管理協会	細胞診	異常者なし
子宮癌検診 (GH)	8月20日	7	福井健康管理協会	細胞診	要観察1名
生活習慣病検診	9月9日	34	予防医学協会	1 ～⑧	精密検査3名
生活習慣病検診 (よもやま・GH)	9月9日	21	予防医学協会	1 ～⑧	精密検査1名
内科検診 (全員) 予防接種	11月13日	37	嘱託医	⑤⑥⑦	外用薬2名処方 内服薬1名処方

* 検査項目：①検尿②血液検査③心電図④胸部XP⑤血圧測定⑥問診⑦聴診⑧身長体重

- ・内科、精神科は嘱託医による月1回の往診
- ・血圧測定、体重測定 月1回実施 ・血糖測定 週1回実施
- ・インフルエンザ予防注射は内科検診日に全員実施 (体調不良者、入院者は随時実施)

・むつみ園内服状況 ①内科薬 (皮膚科、泌尿器科等含む) 26名 ②精神科薬 25名

(2)年間入院状況

病院名	済生会病院	尾崎病院	県立病院	勝山総合病院	たけとう病院	福仁会病院	合計
実人数	1	14	8	1	5	2	31
延べ日数	5	232	203	4	138	24	606

※病名 肺炎（間質性肺炎含む）、急性胃腸炎、腸閉塞、心不全、尿路感染症、炎症反応高値、食欲不振、脳梗塞、統合失調症、認知症、粗暴行為など

(3)年間通院診療科

	内科	外科 整形	精神科	耳鼻 咽喉科	眼科	皮膚科	泌尿器科	脳外科	その他	合計
実人数	82	16	120	11	12	19	19	6	10	295
延べ日数	163	19	138	27	16	21	25	6	16	431

※内科、精神科の往診は含まず。

(4)年間処置

	傷処置	軟膏処置	点眼・点耳	摘便・下剤	座薬	血糖測定	不穏時不眠時解熱剤	湿布	その他	計
実人数	43	326	47	159	63	70	64	42	10	824
延べ人数	244	6464	1396	412	231	280	103	116	11	9257

4. 給食業務

救護施設 大野荘

利用者の平均年齢が高くなり、咀嚼・嚥下困難者が増えている。食事形態の見直しを細目に行うことで、個々に合わせた食事提供をしてきた。急な体調変化にも応じるよう努力をした。また、調理員の減少があった中で、個別対応が疎かにならないよう、衛生面に気を付け安全で安心した食事を提供出来るようにした。

(1) 栄養摂取量 (一人1日平均)

品目	目標値	摂取量	比率	品目	目標値	摂取量	比率
熱量 kcal	1800	1913	106%	ビタミンA μg	450	552	123%
蛋白質g	50	68.5	137%	ビタミンB1mg	1.0	2.40	240%
加鈣 μmg	600	683	114%	ビタミンB2mg	1.0	1.08	108%
鉄分mg	6.0	11.8	197%	ビタミンCmg	85	99	116%
						食塩相当量	9.2g

(2) 食糧構成 (一人1日平均)

食品類別	目標値 (g)	摂取量 (g)	食品類別	目標値 (g)	摂取量 (g)
穀類	275	277	野菜類	320	352
芋類	70	65	果実類	60	73
魚介類	70	66	海藻類	5	8
肉類	30	47	種実類	1	2
卵類	40	27	油脂類	8	6
乳類	230	234	調味料	25	36
豆類	73	82			

(3) 栄養指導

全体栄養指導 (6月、11月)

- ・食中毒予防のため、手洗いの必要性和正しい洗い方について
- ・嗜好品の自己管理の方への衛生的な食品の扱い方について
- ・外出時の食品購入について、衛生面で気を付けて欲しい事の確認

栄養相談には、希望献立があった時は、間を置かず取り入れるよう努力した。食事量の相談や、食事内容については、丁寧に相談に応じた。厨房作業の相談もあり、その時も担当職員の協力を得ながら、本人の今後の総合目標を踏まえた相談をした。

(4) 事故、ひやり報告

調理作業中での異物が混入したと思われる報告が2件あった。その都度調理員と改善策を講じた。

(5) 給食行事

4月	父母の会	1月	おせち料理
8月	ふれあい夏まつり	2月	鍋昼食会
11月	報恩講料理	3月	おさらい会
毎月、特別献立の日を実施		9月、非常食を喫食	

障害者支援施設 むつみ園

委託業者、支援員と食事の提供について定期的に話し合いを持った。

検食簿からの意見も含め、利用者の嗜好に関する事や食事形態に関する意見、食事提供のやり方等問題が出た時は、委託先に相談をもち掛け、支援員と確認しながら速やかに取り組んできた。また、利用者の健康管理を万全にするため、他職種と連絡を密にし、栄養状態の把握に努めた。

(1) 栄養摂取量 (一人1日平均)

品目	目標値	摂取量	比率	品目	目標値	摂取量	比率
熱量 kcal	1794	1877	105%	ビタミンA μg	572	680	119%
蛋白質g	61	64.9	106%	ビタミンB1mg	1.0	0.99	99%
加鈣 μmg	600	714	119%	ビタミンB2mg	1.1	1.08	98%
鉄分mg	10.3	10.4	101%	ビタミンCmg	100	106	106%

食塩相当量 8.3g

(2) 食糧構成 (一人1日平均)

食品類別	目標値 (g)	摂取量 (g)	食品類別	目標値 (g)	摂取量 (g)
穀類	264	270	野菜類	320	386
芋類	50	48	果実類	50	53
魚介類	66	83	海藻類	8	2
肉類	30	56	種実類	1	1
卵類	40	24	油脂類	6	12
乳類	225	211	調味料	53	72
豆類	70	45			

(3) 給食行事

4月	保護者会	11月	報恩講料理
8月	ふれあい夏まつり	1月	おせち料理
毎月、誕生会を実施 12月、非常食を喫食			

II 各事業の状況

1. 救護施設 大野荘

(1) 利用者の状況 (令和2年3月31日現在)

○利用定員140名

○利用者数138名 (男性86名 女性52名)

○入退所状況

入所者 11名 (男性6名 女性5名)

No	氏名	性別	入所日	実施機関	備考
1	M	男性	H31.4.1	勝山市福祉事務所	病院
2	K	女性	H31.4.1	勝山市福祉事務所	自宅
3	T	女性	R1.7.1	岐阜県下呂市福祉事務所	自宅
4	Y	男性	R1.8.30	福井市福祉事務所	病院
5	S	男性	R1.8.1	坂井市福祉事務所	自宅
6	H	男性	R1.10.1	福井市福祉事務所	病院
7	I	男性	R1.11.29	福井市福祉事務所	病院
8	M	女性	R1.11.1	岐阜県下呂市福祉事務所	病院
9	H	女性	R1.12.25	小浜市福祉事務所	病院
10	T	男性	R2.2.1	小浜市福祉事務所	病院
11	A	女性	R2.2.1	福井市福祉事務所	病院

退所者11名 (男性7名 女性4名)

No	氏名	性別	退所日	実施機関	備考
1	A	男性	R1.8.23	坂井市福祉事務所	死亡
2	O	男性	R1.10.31	福井市福祉事務所	病院
3	S	男性	R1.11.29	大野市福祉事務所	死亡
4	F	男性	R1.11.5	福井市福祉事務所	老人施設
5	M	男性	R1.12.11	福井市福祉事務所	老人施設
6	T	女性	R.12.21	大野市福井市福祉事務所	死亡
7	A	女性	R1.12.23	福井市福祉事務所	病院
8	K	女性	R1.12.27	丹南健康福祉センター (武)	死亡

				生)	
9	M	女性	R2.2.18	岐阜県下呂市福祉事務所	老人施設
10	Y	男性	R2.3.20	無し	死亡
11	T	男性	R2,3,31	小浜市福祉事務所	他施設

○一時入所 6名 (男性6名)

No	氏名	性別	利用開始日	実施機関	利用理由	備考
1	M	男性	6月20日	鯖江市福祉事務所	転院先の空き待ち	病院
2	Y	男性	7月2日	福井市福祉事務所	体験	入所
3	S	男性	7月22日	坂井市福祉事務所	体験	入所
4	H	男性	8月22日	福井市福祉事務所	体験	入所
5	H	男性	11月15日	大野市福祉事務所	障害サービス利用待ち	自宅
6	T	男性	1月17日	小浜市福祉事務所	障害サービス利用待ち	グループホーム

○年齢構成

	最少年齢	最高年齢	平均年齢
男性	40歳	96歳	66.4歳
女性	57歳	95歳	72.8歳
平均年齢			68.8歳

○車椅子・歩行器利用の状況

利用状況	車椅子 (名)	歩行器 (名)
男性	12	2
女性	15	6
計	27	8

○面会状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	13	17	18	18	22	15	19	17	18	14	8	0	178

※ 3月以降は、新型コロナウイルス対策により、面会禁止措置となり面会者無し

○外泊状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	0	2	0	1	2	0	1	0	1	2	0	0	9

(2) 活動の状況

日中活動として、午前中は各班の活動、午後は個別支援・介助入浴を行う。

《なごみ班》

○利用者 81名 (男性46名 女性 35名)

利用者の心身の機能維持を目的に、軽運動や季節に合わせた造形活動、その他レクリエーション等を行う。

《介助入浴》

○利用者79名 (男性50名 女性29名)

入浴支援として、利用者の健康状態や衛生面に配慮しながら、重度、高齢者を中心に

着脱や洗身等の介助・見守りを行う。

《自主入浴》

○利用者60名（男性36名 女性24名）

自立度の高い利用者を対象に入浴を提供しており、男女共に少しでもゆったり入れるよう、入浴順を3班体制にしている。

（３）個別支援計画

ケア会議実施状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	18	18	23	22	27	16	21	19	27	23	30	19	263

毎月の予定表を各寮へ提示し、その月でケア会議を実施するよう呼びかけたが、通院などの業務で予定通り実施することは難しく、上半期においては25件、1年を通しては9件出来ていない状況である。実施出来ない状況は何が原因なのかを探り明確にする事が必要である。又、今後はVer. 0の導入により、支援を中心とした計画を立て、実行する事が求められる。その為にもVer. 0に沿った個別支援計画作成の準備を早急に進めていく。

（４）作業班の活動状況

○こでまり班 利用者28名（男性22名 女性6名）

委託作業は、5業者（ちぎり・組み立て・箱折り等）から委託され、それぞれの納期に合わせて作業を行い、作業提供も継続して出来ている。

○のぞみ班 利用者22名（男性15名 女性7名）

委託作業（スポットのバリ取り）は業者からの入荷が少なく作業提供が出来ない事が多かった。陶芸についてはイベント（ハピネスフェア等）に向けた製品作りを行った。

○農耕班 利用者6名（男性5名 女性1名）

作付けの種類（じゃが芋・玉ねぎ・葱・白菜・大根）を限定し、畑作業を行い、葱についてはJAに出荷した。又、近隣小学校（小山）との交流事業として春にはさつま芋の苗を植え、秋には収穫を行った。秋野菜（葱・大根・白菜等）の収穫終了後は、12月からは例年通り委託作業（墨汁キャップ）を行った。

○内勤班 利用者4名（男性1名 女性3名）

厨房と洗濯の2班に分け、それぞれの作業を交代制で継続して行っている。

○外勤班 利用者1名（男性1名）

阿部産業への外勤実習を行っている。令和2年2月で今まで実習に出ていた方が、地域移行するため、新しい方（すてっぷ利用者）に交代をしている。

<考 察>

今年度も午前中に班活動、午後から個別支援と介助入浴を日課の中心に据え行ったが、年度当初にインフルエンザの発症者が相次ぎ発生し、体育館隔離を行う等対応に追われるスタートとなった。5月から8月の期間は、男子寮階下の居室改修工事のため、男子寮階下利用者が体育館内の仮設部屋で生活を送ることになる。

そのような中でなごみ班は、こぶしホールにて一部内容を縮小して活動を行うこととなったが、全体を通しては、季節に合わせた創作活動や、ゲーム、おやつ作り等、様々なレクリエーションを取り入れるなど、工夫を凝らした内容にしたほか、爪切りや保湿ケア等、衛生面のケアにも力を入れて取り組みを行った。

作業班の活動では、こでまり班の委託作業が午前中だけでは処理できず、一部の作業については、午後からも作業を行った。

年度を通じて高齢化は進んでおり、慢性疾患や認知機能の低下で通院や入院となる利用者が増えている。下半期は内部疾患等重い病気を抱える利用者が、相次いで他施設や病院等に移行され、また高齢利用者4名の方がお亡くなりになる等、利用者の現員に大きな動きがあった。

3月に入ると、新型コロナウイルスの県内への影響が出始めたため、それに合わせて利用者の生活面でも外出や面会を制限するなど、職員の勤務体制を含め対応を行う事となる。また、入所についても感染予防のため制限を加えた対応となる。

(5) 居宅生活訓練事業 (すてっぷ)

○男性3名が利用中

利用者1名の利用期間が過ぎたため、施設に戻り地域移行支援を継続することになり、11月より新規利用者が利用している。

今年度3名体制を維持しており、1名は単身生活と一般就労、1名は在宅で生活保護も利用した生活、1名はGHへの移行を目標に訓練を行っている。

2. 障害者支援施設 むつみ園

施設入所・生活介護事業

(1) 利用者状況 (令和2年3月31日現在)

○定員40名 現員37名

施設入所：男性20名 女性17名 計37名

生活介護：男性20名 女性17名 計37名

* 内1名男性2月より通所にて利用

* 男性1名 就労継続B型事業所利用

女性1名 他事業所生活介護利用

○入退所

令和元年 5月女性 (33歳) 1名 入所

令和元年 8月女性 (91歳) 1名 死亡退所

令和2年 2月女性 (77歳) 1名 死亡退所

○年齢構成

	最少年 齢	最高年 齢	平均年 齢
男性	30歳	85歳	60.9歳
女性	34歳	85歳	69.8歳
平均年 齢			65歳

○外泊状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合 計
人数	5	4	2	1	7	1	1	2	4	4	3	0	34

○面会状況（個別懇談会及び保護者会総会参加も含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	21	11	8	9	6	8	9	8	2	7	3	0	92

（２）生活状況

利用状況	車椅子	歩行器	ベッド
男性	3名	1名	11名
女性	6名	2名	15名

食事	普通食	介助食	食事支援	見守り	要介助
男性	7名	13名	男性	18名	2名
女性	6名	11名	女性	15名	3名

* 介助食

粥食、軟飯、刻み食、軟菜 トロミ対応、病食対応 他

排泄	自立	要介助	入浴支援	一部介助	全介助
男性	9名	11名	男性	6名	14名
女性	10名	7名	女性	6名	11名

夜間の対応	男性	女性	計
離床センサー （ナースコール含む）	2	2	4
定時排泄誘導	2	0	2
おむつ対応	4	5	9
ウロバッグの管理	2	1	3
水分補給・発汗時対応	1	1	2
ポータブルトイレ	1	5	6
体位変換	0	3	3
起床時の清拭	9	8	17

今年度、入浴について大きく見直しを行い、月、水曜日は男性、火、木曜日は女性、金曜日は男女入浴とした。また、それに伴い週間日課についても変更行ったことで、利用者はじめ職員も戸惑いながらのスタートとなった。

入浴支援のあり方についても見直しを行い、時間に余裕を持ちゆっくりと入浴を楽しむことや、丁寧な介助を行うことで利用者個々に応じた支援に立ち返ることができた。

入浴をベースに、ミュージックケア、自治会集会、自治会喫茶、創作活動、個別支援といった活動を組み合わせたり、また一斉作業での館内の清掃など環境整備の時間も組み入れながらの日課となり、半期を過ぎた頃によりやく落ち着いてきたようであった。

下半期になると、高齢に伴う疾患により入退院を繰り返す利用者が増え、更に令和元年11月末には、園内においてインフルエンザが発症し、12月に入り感染が拡大して利用者9名が罹患、疑陽性者7名に予防投与と隔離対応を行い、同月18日に収束した。

また、令和2年2月末、利用者1名が感染症を疑われる胃腸炎に罹患し隔離対応となり、3月に入り更に1名が同様の症状にて隔離対応となった。

そんな最中にも、新型コロナウイルス感染が拡大して全国で蔓延し始めたことにより、3月からは面会や外出を制限するなど、利用者の生活に大きく影響を及ぼした。

(3) 個別支援計画（ケア会議実績）

月	ケア会議件数	本人参画者数	懇談会件数	郵送対応件数
4月	9	4	2	7
5月	3	3	3	無
6月	5	3	1	無
7月	8	5	5	2
8月	8	5	8	5
9月	3	3	3	無
10月	9	5	2	7
11月	3	3	3	無
12月	1	1	0	1
1月	7	5	3	4
2月	13	10	1	12
3月	4	4	0	4

ケア会議には可能なかぎり多くの利用者の参画に努めた。自らの意思を伝えることが難しい利用者も参画を基本とし、会議の中で利用者の存在を感じながらより良い支援に繋がる時間を持つことで、個別支援計画がより本人主体となった。また、本人から直接思いを聴くことにより、その思いを計画に反映できるようになった。

ケア会議への参加に緊張し不安定になる利用者については、事前に会議の開催について内容などを伝え、丁寧に説明をすることで自らの個別支援計画について安心して取り組めるよう配慮している。

また、年が明けると新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策のため、面会などの制限により、個別懇談会の開催ができず郵送対応せざるを得ない状況となった。

(4) 短期入所事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	2	2	2	1	2	0	2	2	0	1	1	2	17
日	4	3	4	2	4	0	11	14	0	12	14	13	81

数														
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

今年度、新規での受入れはなく現在の登録者数は男性3名、女性3名であり、その内、実際の利用は男性1名、女性1名であったが、週末などの短期利用により家族のレスパイトとしての役割を担い地域の福祉ニーズに応えている。

(5) 日中一時事業
放課後の利用として、奥越特別支援学校小学部3年の女兒、同じく中等部3年の女子生徒の2名の利用に加え、小学1年生女兒の長期休暇の利用受け入れを行った。その他にも利用希望があったが、定員を超えての受入れに対応できず、地域のニーズに応えるだけの体制がとれないのが現状である。

3. 共同生活援助事業（グループホーム）

利用者状況(令和2年3月31日現在)

ホーム名	現員数	最低年齢	最高年齢	平均年齢
たんぼぼ	男子5名	58歳	75歳	68歳
さわらび	男子5名	52歳	75歳	66.8歳
ひまわり	男子5名	43歳	70歳	54.8歳
うぐいす	女子6名	50歳	71歳	60歳
かささぎ	女子5名	49歳	75歳	62.2歳

4月より、ここ数年に渡り減員が続いていた「ひまわり」の定員を5名に変更し、それに伴い「たんぼぼ」も5名定員として、入居者も一部入替えを行い5ホーム26名で新たにスタートした。

入居者の平均年齢が60歳を超え、70歳以上の方も2割余りとなり、ホームにも高齢化による様々な問題が派生している。高齢で身体的な理由により就労困難となり、就労継続B型から生活介護の利用へと、日中のサービスが変更となった利用者もあり、今後サービスの変更や生活状況の変容が見込まれる利用者も少なくない。身の回りのことができなくなり、支援の量が増えて世話人の負担も増すなか、世話人も70歳以上の方が多いため、思うように支援が行き届かないのが現状である。高齢化するホームの生活を支えるには、世話人業務の見直しが急務となる。増大する通院や買物など外出の支援、そして、世話人の休暇対応にと、支援員とサービス管理責任者が奔走しており、世話人の確保についても厳しい状況が続いている。また、支援の困難さのみならず住環境についても高齢化に対応すべき課題が山積している。

4. 障害福祉サービス事業所 よもやま

(1) 利用者の状況
1 出身市町(単位：人) (令和2年3月31日現在)

出身市町	男	女	合
------	---	---	---

				計
福井県	永平寺町	0	1	1
	越前市	1	0	1
	坂井市	1	0	1
	福井市	4	1	5
	敦賀市	1	0	1
	大野市	6	1	7
	勝山市	0	3	3
合計		13	6	19

	30～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～	平均年齢
男	1	1	1	2	1	1	2	4	58.7
女	1	1	1	1	0	2	0	0	51.0
合計	2	2	2	3	1	3	2	4	56.3
%	11	11	11	15	5	15	11	21	100

2 年齢構成 (単位：人)

(令和2年3月31日現在)

3 利用状況 (単位：人)

令和元年度	
新規利用	1人
利用終了	1人

(2) 就労継続支援B型事業

①リサイクル作業[収益 1,386,814円、前年度対比 169,592円の減]

2 食品加工[収益3,083,927円 前年度対比 281,969円の減]

・ポン菓子[収益 2,461,717円、前年度対比 189,181円の減]

セルプ振興センター・新鮮館・かじ惣・杉本清味堂・結楽座・ぶなの木・イベント販売

・甘栗[収益 464,660円、前年度対比 49,038円の減]

10月下旬より製造に取り掛かり、注文販売やイベント販売。ピネスフェア (V I O)にて実演販売。

・梅干[収益 157,550円、前年度対比 27,950円の減]

注文販売や各種イベント販売

3 下請け[収益 2,777,436円、前年度対比 193,048円の増]

・プラスチック関係[収益 1,940,357円、前年度対比 72,515円の増]

三興プラテック株式会社 (お茶内職)、ボトル

酒井プラスチック工業所 (バリ取りと検品)

OKUDA (まな板)

中野化成 (プラスチック組み立て)

服部ブロー (カップシール、おろし器)

・ニチコン[収益 266,869円、前年度対比 44,718円の増]

- アルミ電解コンデンサ外観不良検査
- ・ヨシケイ[収益 193,140円、前年度対比 10,876円の増]
シート拭き・保冷袋の水洗い
 - ・その他[収益 377,070円、前年度対比 64,939円の増]
- 大野市福祉こども課（市報の封筒詰め作業）
除草（結楽座、大野市下水道課、むつみ園、個人宅）
大野市観光課（新堀川の清掃）

- 4 販売[収益 5,919,280円、前年度対比 1,063,386円の減]
- ・自動販売機[売上3,156,150円 前年度対比 257,500円の減]
大野荘・むつみ園の自動販売機の補充と商品発注（週2回）
飲料水販売（ふれあい夏まつり・上庄夏まつり）
 - ・パン販売[売上 338,755円 前年度対比 85,154円の増]
大野市役所 月2回（第2・第4木曜日）
大野福祉会 月2回（第1・第3木曜日）
 - ・その他[売上 2,353,334円 前年度対比 890,040円の減]
里芋、米、蕎麦、はまな味噌、日本ハム等
 - ・ハピネスフェア [販売手数料71,041円]
11月30日・12月1日開催（ショッピングモールVIO）

⑤参加イベント

4月	父母の会	10月	小山まつり、三大朝市物産まつり
5月	五番テント市	11月	小京都物産五番まつり、七間楽市
6月		12月	ハピネスフェア
7月	富田福祉のつどい	1月	
8月	ふれあい夏まつり、上庄夏まつり	2月	
9月	福井矯正展	3月	

あけぼの園の各イベント販売には、委託で参加した。

⑥事業種別売上表

(単位：円)

	平成30年度	令和元年度
リサイクル	1,556,406	1,386,814
食品加工	3,365,896	3,083,927
下請け	2,584,388	2,777,436
販売	6,982,666	5,919,280
計	14,489,356	13,167,457

⑦作業工賃年度別比較表

(単位：円)

	平成30年度	令和元年度
計	5,103,505	5,414,535

⑧作業工賃年度別比較表

(単位：円)

	総支払額	平均月額	平均時給額
平成30年度	5,103,505	22,784	229.6
令和元年度	5,414,535	23,339	230.0

5. 生活困窮者自立相談支援事業

(1) 自立相談支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談件数	2	4	3	3	1	1	2	3	1	1	0	3	24
就労者数	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3

相談内容（複数回答）		
失業・求職について		9
収入・生活費について		13
滞納・債務について		6
家族・本人の健康・病気・障害について（医療費が高い等）		7
住まい・家賃について		4
家族関係・人間関係について		3
家族・本人のひきこもり・不登校について		4
子育て・介護について		4
その他（一人暮らしに不安がある等）		3

(2) 就労準備事業

就労準備支援については、前年度の利用者を含めて4名利用していたが、11月に2名がアルバイトを開始したために終了となり現在2名が利用中となっている。また、家計改善支援は、3名利用中であり2名のプラン作成を行った。その他、日中の居場所となるフリースペースを1月よりふらっと2階に開設し、現在3名が定期的に利用をしている。

6. 障害者相談支援事業（計画相談）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
障害児	モニタリング	4	4	3	1	3	1	6	1	2	1	3	9	38
	計画案作成	0	3	0	0	0	1	3	0	2	0	2	1	12
	本計画	1	0	4	0	0	0	1	3	0	2	0	2	13
	契約件数	12	12	13	13	13	13	13	13	14	14	14	8	152
障害者	モニタリング	10	7	23	25	7	20	11	9	15	14	5	13	159
	計画案作成	3	3	8	4	3	3	3	4	1	2	2	4	40
	本計画	2	3	3	8	5	4	3	3	4	1	2	2	40
	契約件数	83	83	83	83	82	81	81	82	82	81	80	80	986

Ⅲ. 職員研修

1. 利用者支援研究会

松原病院の公益事業として、施設と合同で年2回の研究会を実施した。第1回目は松原病院が主催する特別講演会と座談会に参加し、2回目は感染症予防について講義を実施した。

	実施日	参加人数	場 所	内 容
第1回	7月15日	11名	ハピリンホール	本当の依存症の話を聞こう
第2回	11月27日	23名	あかねホール	冬場に向けての感染対策の基本

第1回目の松原病院主催の研修会では、「本当の依存症の話を聞こう」の講演に11名が参加した。

第2回目の「冬場に向けての感染対策の基本」では、感染症予防についての基礎講座と消毒の有効性について学びました。

第3回目の実施について松原病院と話し合いを行っていましたが、研究会から数日後に施設内にて感染症が流行し、2月以降新型コロナウイルスが国内にて流行した為、施設内での研究会の開催が難しくなり、令和元年度は2回の開催となりました。

2. ケアマネ研究会

	実施日	参加人数	場所	内容
第1回	6月18日	7	あかねホール	今後のケアマネについて
第2回	9月10日	7	あかねホール	アセスメントについて
第3回	10月15日	7	あかねホール	むつみ園より事例研究
第4回	11月19日	7	あかねホール	大野荘より事例研究
第5回	2月18日	6	あかねホール	1年間の振り返り

3. 派遣研修（大野荘）

月	研修会名	主催者(場所)	参加職種	参加数	研修内容
4月	法人連携事業に向けた検討会	福井市	支援員	1	事業強化に向けた具体的な取り組み方策
5・6月	キャリアパス初任者コース	福井市	支援員	2	キャリアデザインを描き実践に繋げる
5月	部下とのコミュニケーション研修	福井市	係長	1	部下の特性把握し、育成する処方学ぶ
6・7	キャリアパス中堅職	福井市	支援員	2	中堅職員として必要な基

月	員コース				本を学ぶ
7月	地域貢献セミナー	連絡事業推進協議会	支援員	1	総会
7月	北陸中部地区救護施設研究協議大会	北中連絡協議会 富山市	施設長 係長	2	救護施設としての取り組みについて
7月	ボランティアコーディネーター研修	県社協 福井市	支援員	1	ボランティアコーディネーターの基礎を学ぶ
9月	キャリアパスチームリーダー研修	県社協 福井市	係長 支援員	2	キャリアアップを図る
9月	強度行動障害支援者養成研修（実践）	福井県	係長	1	講義・演習
10月	ミュージックケア研修会	希望園	支援員	1	講義
10月	感染症予防対策研修会	老施協 福井市	看護師	1	感染症と対処方法について
10月	全国救護施設研究協議大会	全救協 静岡県	施設長 課長補佐	2	救護施設の専門性を高める
10月	福祉施設防災マネージャー養成研修	県社協 福井市	係長	1	現場責任者養成
11月	北陸三県救護施設職員研修会	北陸三県連絡協議会 あわら市	施設長 副施設長 課長 課長補佐 係長 支援員 看護師 相談員	1 2	各施設の課題について意見交換を行う
11月	北陸中部地区個別支援研修会	北中連絡協議会 福井市	施設長 副施設長 課長 係長 支援員	1 1	新しい個別支援計画の考え方を講義・演習
11月	高齢者・障害者虐待防止研修	県社協 福井市	支援員	1	ケアの質の向上
11月	感染症予防研修会	健康福祉センター 勝山市	看護師	1	高齢者の結核・健康管理
11月	全国相談支援ネットワーク研修会	相談支援専門員 教会 東京	相談員	1	相談支援の原点を考える
12月	福井県相談支援従事者現任研修	福井県 福井市	相談員	1	資質向上を図る
12月	救護施設サービス研修会	全社協 東京	施設長 係長	3	個別支援計画の理解と充実
12月	障害者虐待防止権利擁護研修	総合福祉相談所 鯖江市	係長	1	専門性の向上
12月	福祉サービス苦情解決機能セミナー	県社協 福井市	課長	1	苦情解決機能の向上を図る
1月	障害者虐待防止リーダー研修会	全社協 東京	支援員	1	虐待を産まない支援について
1月	中堅者フォローアップ	県社協	支援員	1	中堅職員の育成

	ブ研修（障害）	福井市			
1月	全国厚生事業団連絡協議会研究会議	連絡協議会 東京	施設長 支援員	2	セーフティネットとしてのノウハウを共有しより質の高い支援を行う

4. 派遣研修（むつみ園）

月	研修会名	主催者（場所）	参加職種	参加数	研修内容
5月	福井県社会福祉法人 経営者協議会研 修会	福井県社会福祉 センター	副施設長	1	地域共生社会の実現に向 け法人の果たすべき役割
7月	北陸地区職員研究大 会	石川県	副施設長 支援員 事務員・看 護師	6	その人にふさわしい支援 を めざして
7月	全国施設長会議	横浜市	副施設長	1	共生社会の実現を目指す 経営の在り方
8月	全国グループホーム 等 研修会	千葉県	サービス管 理責任者	1	情勢報告・基調講演
8月	相談支援従事者 初任者研修	福井県 生活学習 館	支援員	1	相談支援の基本的視点
9月	施設見学（奥越地 区）	障害者 支援施設部会	副施設長 支援員	2	奥越4施設（入所・介 護） 見学
9月	強度行動障害支援者 養成研修（実 践）	福井県 生活学習 館	支援員	1	講義・演習
10月	第3回福井県知的障 害者福祉協会職員研 修会	福井県社会福祉 センター	副施設長 支援員	4	支援手順書の作成
10月	第1回ミュージック ケア研修会	希望園	支援員	2	セッション・講義
10月	クレーム苦情対応研 修	福井県社会福祉 センター	課長	1	クレーム対応の基本スキ ル
10月	第57回全国知的障害 福祉関係職員研修大 会	鹿児島市	支援員	1	第五分科会「地域で働 く」 支えられる 側から支える側へ
11月	第8回障害者支援施 設 部会全国大会	新潟市	課長	1	レジデンシャル・ソー シヤルワークから地域課 題を考える
12月	救護施設福祉サービ ス研修会	全救協 東京	サービスマ ニヤル責任者	1	救護施設個別支援計画書 指導者養成研修

12月	福井県障がい者 虐待防 止・権利擁護研修	福井県 総合福祉 相談所	係長	1	虐待防止の取組み、虐待 防止研修の進め方
12月	福井県社会就労セン ター協議会職員研修	アイアイ鯖江	支援員	1	障害福祉施策の動向、就 労支援の課題
12月	福祉サービス苦情解 決 機能強化セミ ナー	福井自治会館	支援員	1	基調報告・講義
2月	強度行動障害支援者 養成研修（基 礎）	福井県 生活学 習館	支援員	2	強度行動障害の理解

5. 所内研修（大野荘・むつみ園）

		研修項目	研修の内容	講 師	参加数 (人)
4月	合同	新任職員研 修	就業規則と個別支援計画	柴山副施設長	2
5月	合同	初級職員研 修	障害特性とその理解	安川課長	2
6月	合同	新任職員研 修	利用者主体の個別支援計画（基 礎）	長谷川係長	2
6月	合同	所内研修	個人情報保護と情報公開	県社会福祉協 議会 杉本氏	40
6月	大野荘	復命報告会	部下とのコミュニケーション	大藤係長	17
7月	合同	初級職員研 修	サービスの質と記録	深美課長	4
7月	合同	防災研修	防災に関する意識高揚と知識の向 上を図る。	大野消防署 小嶋氏	30
7月	合同	中級職員研 修	コミュニケーションについて	葭安係長	9
7月	合同	復命報告会	ボランティアコーディネーターの 質の向上について	鳥山支援員	32
8月	合同	初級職員研 修	介護の基本と応急処置	江波看護係長	4
9月	合同	中級職員研 修	利用者主体の個別支援計画（実 践）	大藤係長	10
10月	大野荘	復命報告会	感染症予防（ガウンテクニック）	石田看護師	10
11月	むつみ園	復命報告会	感染症予防対策について	江波係長	21
11月	むつみ園	復命報告会	障害者虐待防止・権利擁護研修会	村中係長	21
11月	むつみ園	復命報告会	感染症予防対策について	江波係長	21
2月	合同	公開講座	介護サービスとACPについて学ぶ	市健康長寿課 岩崎氏 在宅医療相談 センター亀井 氏	46

※3月に予定されていた、防災研修については新型コロナウイルス感染による感染拡大防止のため中止となる。